

地域の道しるべ新聞

2019年
1月21日
創刊
佐久穂町役場
総合政策課

集落運営の新聞創刊

町は集落の挑戦を応援し、取り組みを情報共有する新聞を創刊します。集落を支える現役世代と次世代が新聞を通して集落の未来を一緒に考え、つなげることを目指します。

「自律し多様なコミュニティが人々のくらしを支え、挑戦や行動を支援するまち」を目指す、佐久穂町コミュニティ創生戦略がスタートしてから、もうすぐ3年が経過します。創生戦略の重点事業の一つである「地域コミュニティ」いわゆる「行政区」を対象に、「様々な地域コミュニティの力で、楽しく安心して暮らし続けられるまち」を掲げ集落が自主的に課題解決できる体制づくりに取り組んできました。その第一歩として、住民自身が集落の現状と将来を正しく把握するために集落基本調査(区民へのアンケート)や聞き取り調査、意見交換会などを実施し、また、集落の今後のあり方や活動について話し合

う場として集落点検(わいわいトークカフェ)を行ってきました。その中で、集落の暮らしに欠かせない区の運営について、少子高齢化、農家の減少、核家族化や共働きなどの社会情勢の変化も重なり、様々な課題と直面しつつも「やらなければならない」と感じているが、一歩踏み出せない。踏み出し方がわからない。など、これまでやり方を見直すきっかけがなかなか作れずにいる集落が多いのではと感じています。

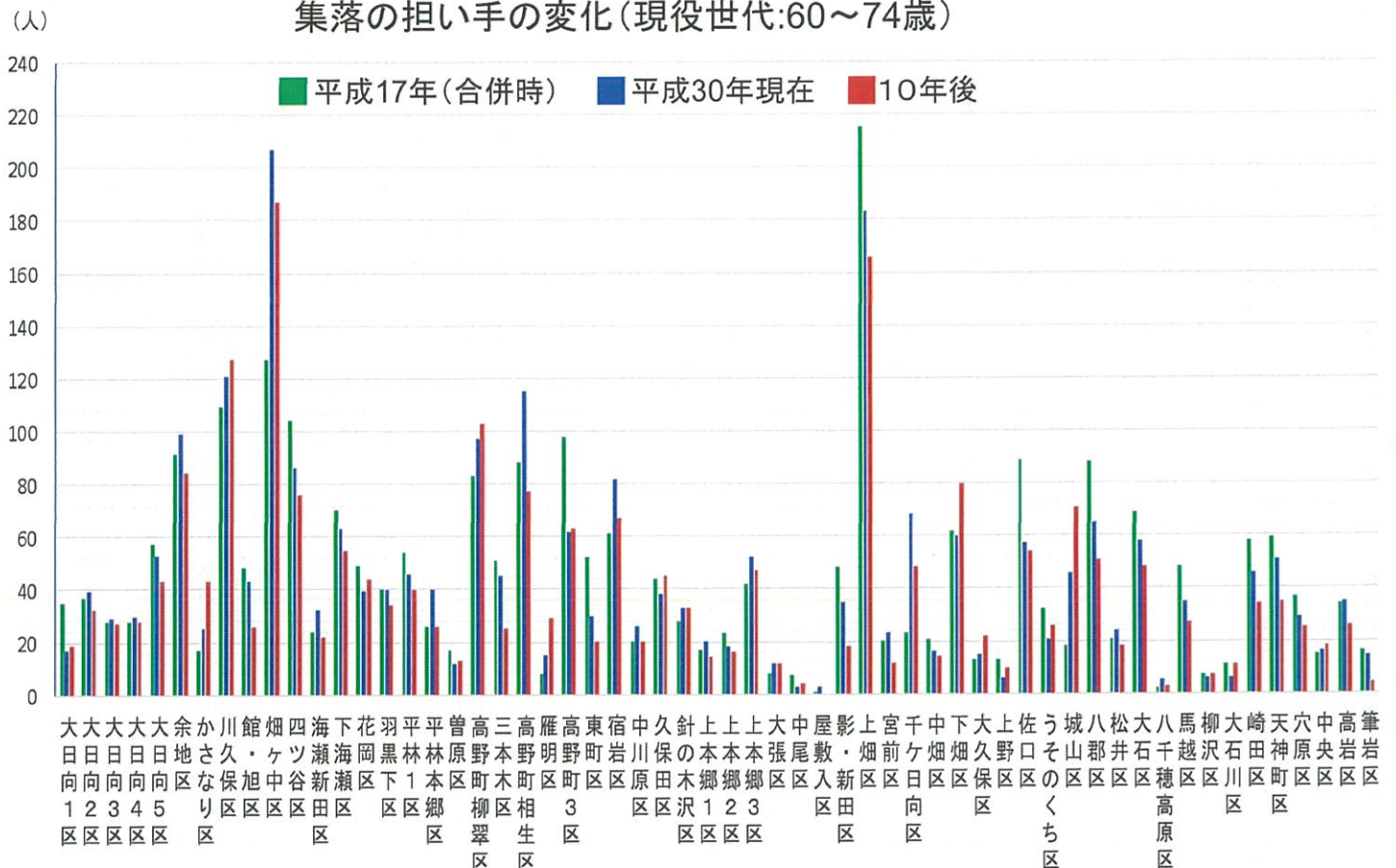
この新聞では、多くの集落でも共通するような課題解決へ挑戦している集落やこれまで集落運営に携わってきた方への取材、他市町村での取り組み事例の紹介、地域づく

りに係る学識経験者への取材、集落運営に役立つ制度の紹介を行います。ぜひ、集落の担い手である多くの住民の皆さんに読んでいただき、今、集落を支えている現役世代の皆さんは、次世代へ何を残すべきか、次世代を担う皆さんは現役世代の挑戦を見て地域をどのようににつないでいくかを「自分ごと」として一緒に考えていきましょう。

【グラフ解説】
仮に集落を支えている現役世代を60〜74歳とした時、10年後、多くの集落で減少します。現役世代が活躍中の今、将来を見据えて、何をしっかりと残すのか、やり方を工夫し、運営していきける仕組みに作り変える必要があると考えられます。

58の行政区がある

集落の担い手の変化(現役世代:60~74歳)



区長の仕事について 聞いてみました

法政大学で地域づくりを研究、平成28年度には佐久穂町での集落点検に参加された岡司直也先生に、この町における集落運営の今後についてお話をうかがった。区長の仕事とは？大事にすべきこととは？これからの集落運営で必要なこととは？

ずし なおや
岡司 直也氏

法政大学 現代福祉学部教授
主な著書に「地域サポート人材による農山村再生」など。
平成28年度には天神町、畑ケ中での集落点検に参加。



区長の仕事増えている

―そもそも区長の役割とは？

まずお金の使い道を決めるのが自治の原点です。お金の使い道を見ると区の動きが分かる。行政からの仕事・農業・行事のうち、重なりが一番分厚いところが主に区単位で動いているところ。区とは何か考えるときに構成しているものは地域にとつて色々なんです。それに伴い区長は農家組合長など他の役割を兼任しているケースがあります。それが今増えてきている。かつて人が多かったときはみんな役割分担していたが、今は人がいないのであれもこれもやらなければいけない。その結果、担い手がいないとか、役員になっても何をすればいいのか分からないということになってしまいます。

―では、どうすればいいのでしょうか？

棚卸しが必要です。どこかでそれをしておかないと、全部を区で回していくというのはきついです。団塊の世代の後はドーンと

人が減るのに、役割は色々あるまま。下の世代は同じように役割を振られるとかなわんなあと思っているのではないのでしょうか。でも大事さはわかっている。なのでそれが悩ましい状況です。

班の再編は

班の目的を

再確認する場に

―持続可能な区を目指して班の編成を見直す動きもあります。班編成の再編という目標はあってもいいけど、助け合わないとやれないことを挙げながら、どの範囲でやっていくのかというところが整備されていくかというと思います。結果としてそれが班編成の話になる。班・常会・区のイメージは皆さんも何かあるはず。その違いを自覚して共有できた上で、それらがうまく機能するようになるにはどうすればいいかという議論をすると思います。

いいものを残して
やれる仕組みを作る

「持続可能な区を目指すために
大事なことは？」

上の世代が活躍しているときにデザインし直すことが大事です。何を残すのか、いいものを残してやるような仕組みに作り変える。それは上の世代も下の世代のためにやろうと思わないといけないし、下の世代もこの地域を繋ぐという思いにならないとできない。本当にバトンリレーそのものなのです。渡す側と受ける側が合意しないとバトンは渡らないので、そのしつらえが難しい。

普段見えていないものに 目を向ける

上の世代の人たちが地域の未来に思いが行くかどうかが鍵になります。自分の世代だけのことを考えるとこれでいいという話になってしまう。地域の子ども達の姿は普段隠れてしまっていて、いないものだと思いついてしまっているけど、決してゼロではない。今はそれぞれが何をやっているかわからないことが多いので、まずは地域を歩いたり、意外にちゃんと色んな人

がいるということに気づいてもらおうと、高齢化が進んでいる、人口が減っていると言いながらも、人はいるからやれるチャンスはあることがわかる。そこに区長さんが気付くことが結構大事です。

区長は守りの仕事

「その中で区長にはどんなリー
ダーシップが求められている
のでしょうか？」

区長の仕事は攻めか守りかという守りの仕事だと思えます。地域を持続させることが大事。区長さんに攻めを求めるのは酷な気がします。攻められるところは有志でやるとか区を超えたところで広く考えていくようにして、区でやりきれないことは、地域おこし協力隊などとタッグを組み役割分担していく。そこで区が魅力的になれば、人が人を呼び、若者が地元に戻ってくる。IターンやUターンの促進に実際に動いている地域もあります。あえて地域おこし協力隊などに入ってもらおうと、区の内側の人間の刺激になりうる。そういう場が作られることが大事。

そのように役割分担しながらチャレンジしていきたい区がどれくらいあるのか。それによって地域の魅力に差が出ていると思います。

自分の経験や

人間性を活かす

「区長を務めるにあたり
心がけるべきことは
なんでしょうか？」

要は人と仕事なんですよね。うまくいっている区長さんは前職の経験や人間性がいい動きを作っていると思うんです。そこで区長さんの色が出てきている。例えば設計の仕事をしてきた方なら土木というように、力の発揮の仕方であると思うんです。

お互いのことを

知っているように

知らない

「自分の色を出すには何から始めたらよいでしょうか？」
飲み会じゃないですか(笑)
そういうコミュニケーションの場を色んなところで作っていけ

ればいいと思います。今はお互いが何をやっているか知らない。勤めていると地域デビューして遅くなるじゃないですか。どうしても自分だけで考えると独りよがりになってしまいます。なので同級生からでもいいのでお互いのことを語る場が大事で、周りの人から見ると「こういうことやいなよ」と仕向けてもらうのが一番幸せなパターンかと思えます。そうして始めたことの方が実際に始めたときに周りも付いてくると思います。周りの人からそういう場を作ってあげてもいいし、そういう普段からの地域でのコミュニケーションが大事なんじゃないかと思えます(聞き手 佐久穂町地域おこし協力隊 副島優輔)



天神町での集落点検

区長OBに聞く！

区の課題は地域によって様々。実際の集落運営について、元区長会長で集落支援員の佐々木正道氏に当時を振り返ってもらった。



ささき まさみち
佐々木 正道 氏

平成24～27年 千ヶ日向区長
平成26～27年 区長会長
平成27年～ 町集落支援員

「区長時代に心がけたことは？
区長1年目は「知ること」がテーマでした。自分が「耳」になつて集落の人の声がよく聞こえるように、積極的に区の中を歩き、人と話す機会を増やしました。直接会うと、表情が分かり、表情が分かれば相手の話の意図も理解しやすいし、自分の言葉に対する反応も見ることが出来ます。ある時、「公民館の掃除が毎年同じ季節になつて大変」という声があると知りロー

「区長時代に心がけたことは？」
区長1年目は「知ること」がテーマでした。自分が「耳」になつて集落の人の声がよく聞こえるように、積極的に区の中を歩き、人と話す機会を増やしました。直接会うと、表情が分かり、表情が分かれば相手の話の意図も理解しやすいし、自分の言葉に対する反応も見ることが出来ます。ある時、「公民館の掃除が毎年同じ季節になつて大変」という声があると知りロー

「区長時代に心がけたことは？」
区長1年目は「知ること」がテーマでした。自分が「耳」になつて集落の人の声がよく聞こえるように、積極的に区の中を歩き、人と話す機会を増やしました。直接会うと、表情が分かり、表情が分かれば相手の話の意図も理解しやすいし、自分の言葉に対する反応も見ることが出来ます。ある時、「公民館の掃除が毎年同じ季節になつて大変」という声があると知りロー

「区長時代に心がけたことは？」
区長1年目は「知ること」がテーマでした。自分が「耳」になつて集落の人の声がよく聞こえるように、積極的に区の中を歩き、人と話す機会を増やしました。直接会うと、表情が分かり、表情が分かれば相手の話の意図も理解しやすいし、自分の言葉に対する反応も見ることが出来ます。ある時、「公民館の掃除が毎年同じ季節になつて大変」という声があると知りロー

「区長時代に心がけたことは？」
区長1年目は「知ること」がテーマでした。自分が「耳」になつて集落の人の声がよく聞こえるように、積極的に区の中を歩き、人と話す機会を増やしました。直接会うと、表情が分かり、表情が分かれば相手の話の意図も理解しやすいし、自分の言葉に対する反応も見ることが出来ます。ある時、「公民館の掃除が毎年同じ季節になつて大変」という声があると知りロー

【町からの情報】～空き家等利活用編～

空き家対策事業補助金

空き家・空き地バンク制度に物件を登録する場合、改修や家財道具等の処分、解体に要する費用に対し補助が受けられます。交付には要件があります。詳しくは町ホームページをご覧ください。

事業	内容
空き家整備	空き家の家財道具処分等に対する補助 補助率 1/2、補助上限 10万円。
空き家改修	空き家の水回り、内装、屋根、外壁等の改修に対する補助 補助率 1/2、補助上限 50万円。
空き家解体	年間を通じて居住されていない空き家の解体に対する補助 補助率 1/2、補助上限 50万円。

※解体後の跡地について、戸建住宅用地として他者へ提供することが要件です。

電話：総合政策課政策推進係 86-2553 担当 水嶋

地域の道しるべ新聞では取り上げてほしいテーマを募集しています。総合政策課政策推進係までお気軽にお知らせください。(電話：86-2553 メール：seisaku@town.sakuho.nagano.jp)